



説教要旨「救い主ってなんなのさ」

ルカによる福音書 9章18～27節

東日本大震災から12年がたちました。今も3万人を越える避難者がおられます。次から次に災害や戦争が起こっている中で、12年前の出来事はもはや過去のものであるかのように錯覚してしまいそうになりますが、あの震災が過去のものではなく、今も続いている大災害であることを改めて見つめ直しつつ、今も困難に直面している方々に神様の愛が示されますことを求めて、祈りを合わせて参りたいと思います。

「あなたがたはわたしを何者だと言うのか」。そう問われた弟子たちを代表してペトロは、「神からのメシアです」と答えました。「メシア」という言葉は、もともとはヘブライ語で「油注がれた者」という意味でしたが、イスラエルの苦難の歴史の中でいつしかそれは、“救済者=救い主”という文脈で使われるようになっていました。つまりペトロは「あなたこそ神から遣わされた救い主です」と告白したのです。

しかしペトロや弟子たちは、その“救い”がどのように成し遂げられるのかを理解していませんでした。当時の人々が求めていた具体的な救いとは、ローマ帝国からイスラエルを解放することであったり、また病気や障害が癒されることでした。けれどもイエス様が示して下さった救いは、そのように即物的な事柄ではありませんでした。即物的な救いを求めていた人々は、自分たちの願っていた救いをもたらさないイエス様を「十字架につけろ」と叫ぶようになります。十字架へと歩まなければならない苦しみを、一緒にいたはずの弟子たちにも理解してもらえず、イエス様は孤独にその道を歩まれました。神の子であるイエス様が、わたしたち人間と同じように、あるいはそれ以上に、この地上の苦しみを味わい尽くされたのです。

困難な状況に置かれた時、まるで神に見放されたかのように思えてしまいます。けれども、神様はわたしたち人間の苦しみに無関心なのではありません。「わたしはあなたと共にいる」。このインマヌエルの恵みこそがイエス様が示された“救い”なのです。

(2023・3・12 説教者：稲垣真実)